

折尾駅を移動して、仮駅舎として活用しよう！

「歴史遺産『北九州市レトロ』を創る会」

当会は、北九州市の歴史遺産を活かした「北九州市レトロ」を創り、北九州市を、日本を代表する観光地にしようと活動をしています。

その為には、「折尾レトロ地区創設」が必要だと、11月24日に、北九州市長と市議会に陳情書を提出し、今月、「建築消防委員会」で検討されることになりました。

【主な内容】

- ① 折尾駅舎（有形文化財の価値）中央部分を曳き家で移動し、仮改札口として活用する。
- ② 解体された西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋（有形文化財の価値）の跡地に作る市民トイレのデザインは、赤煉瓦高架橋をイメージしたものにする。
- ③ 「堀川運河」（近代化産業遺産）に、五平太船のオブジェを設置する。
- ④ 「折尾レトロ」の歴史遺産を紹介する看板設置と、観光案内などで広報をする。

12月28日、JR九州に「折尾駅舎の中央部分を曳き家で移動し、仮改札口として活用する」陳情書を直接手渡し、常務取締役（鉄道本部長）の方々とお話をさせていただきました。

【主な回答内容】

- ・ JRの手で、折尾駅舎を移動して仮駅舎として残すことは難しい。
- ・ 曳き家での移動については、北九州市の都市計画の絵の中に書き込まれれば協力する。
- ・ 北九州市が、歴史的なものとして残していきたいということであれば、仮改札口あとに残った建物等は、活用していただきたい。
- ・ 折尾駅舎の提供は、JR九州から北九州市へさせていただく。
- ・ 門司港駅は、正に生きた状況で残った。折尾駅高架工事の青写真に折尾駅舎が残っていれば1つの事業としてやっていけたが、北九州市が高架橋のプランを提案されたので、JR九州としてはそのための予算しかなく、お金を出してやるということは難しい。
- ・ 北九州市で、レプリカでなく門司港駅や門司倶楽部で実施したような「完全復元」をされるのであれば、お手伝いしたい。もし、状況が変わればご相談ください。
- ・ 北九州市が駅舎を残したいという方向になれば、我々も一緒に打ち合わせに入る。

今回の陳情で、JR九州は、折尾駅舎を、正に生きた状況で残したいと思っていたことや、今でも、レプリカでなく、本物で残したいという気持ちがあることがわかりました。

折尾駅舎を曳き家で移動して仮改札口として活用する際の注意点や手順などをお聞きし、別紙「折尾駅舎移行手順案」を作成しました。

手順の中で、**先ず、〈仮〉北口改札口を作り、折尾駅舎を移動する期間、〈現在〉東口改札口を閉鎖することは、通常の手順（業務停滞防止のため、同時に2ヶ所改札口等を設置）を省略できるため、大幅な経費削減になることもわかりました。**

また、高架工事終了時に、工事ヤード部分に折尾駅舎の2階建て部分の翼を増築し、高架に面するところに改札口を設けることで、利便性が格段と良くなり、門司港駅のように、**正に、生きた状況で、駅舎本来の目的で保存活用することができます。**

更に、**折尾駅舎2階部分に、高架下の駐輪・駐車場と南口改札口を結ぶ歩道橋をつなぐことにより、バリアフリーの建物にもなります。**

折尾駅舎は、日本近代化産業の基幹を担った、後世に継承すべき「日本の重要な歴史遺産」であり、「社団法人土木学会」でも、『都道府県レベルの有形文化財級』の価値があると評され、多くの学識経験者や諸団体が、「折尾駅舎の保存活用」の活動をしてきました。

折尾住民にとって、折尾駅舎は、折尾のシンボルとして、なくてはならないものです。

是非、『折尾駅舎中央部分を曳き家で移動して、仮改札口にする提案』に、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。